

中根小校内研修

H28.12.6

【研究テーマ】

一人一人の学びを保障する学習指導の在り方

～知識・技能を活用する授業づくりを通して～

★協働的な学びの考えを土台に + 学力向上 + アクティブラーニングの視点

教師が支える
教材が支える
仲間が支える

バランス！

★一人一人の学びを保障する

★安心して関わり合い 支え合う姿

★45分間 夢中で学び続ける姿

★わかった！すっきり！のある授業

【具体的施策】

5・6月のチャレンジ事項

学び合える学級づくりを意識していこう！！

7月のチャレンジ事項

子供の学びに寄り添う足場かけを意識していこう！！

8・9月のチャレンジ事項

学年で協働して行う教材研究

10月のチャレンジ事項

一人一人の わかった！すっきり！なるほど！をめざそう！！

11月のチャレンジ事項

学年に応じた

12月のチャレンジ事項

一人一人の学びに目を向けよう！！

【授業者として・・・】

★学べている？ 困ったときに関われている？

→ 児童の様子をよく見てつないでいく

授業づくり

*課題でつなぐ（ジャンプの課題／身近な課題）

*活動（モノ）でつなぐ（興味関心のわく活動）

授業中

*仲間をつなぐ（聴き合う・寄り添う関係） → ペア・グループ

*教師がつなぐ（声かけ／意図的指名／足場かけ／同じ土俵にあげる）

★どんな足場かけが必要？

→ 児童の学びをよく見ていく

*本時に身につけさせたい力を意識

*わかっていることではなくて 困っているところに注目

（発言／つぶやき／ノート・・・）

*足場かけ → 教材研究から予想されるもの＋授業中の児童の学び

【参観者として】

★見取りのレベルアップ

*見取りやすい子 > みんなで どう埋めていくか
見取りにくい子

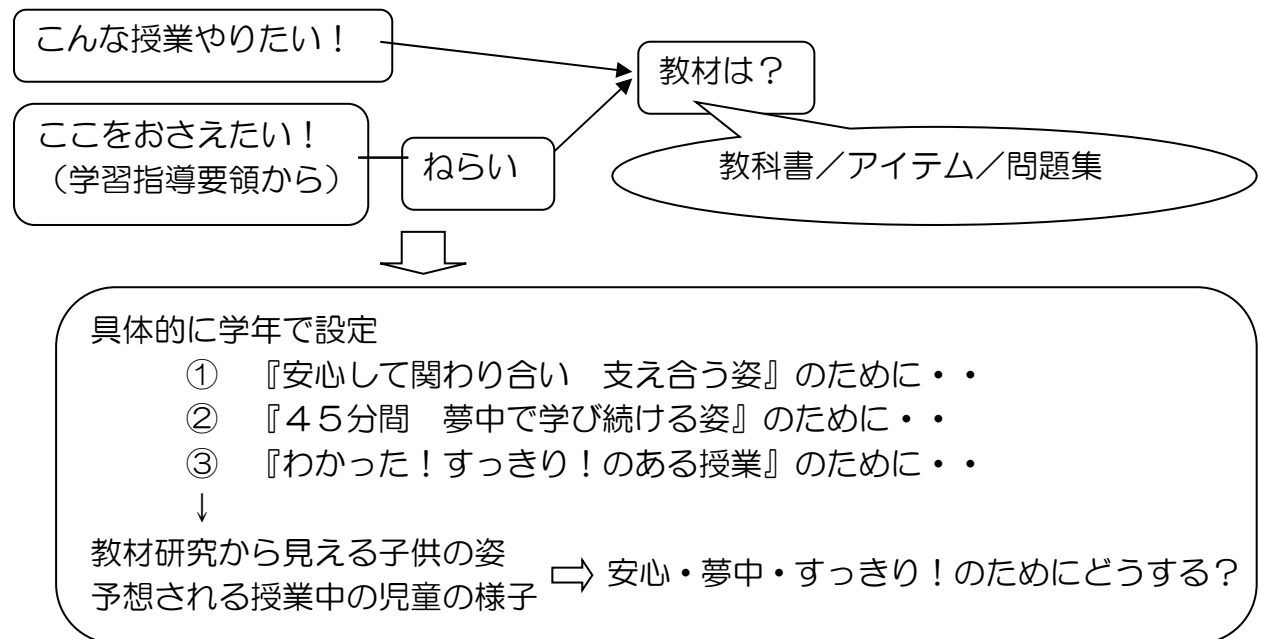


研究協議＝参観者の見取りのレベルアップをめざして！

そういう見方もあるのか！

自分の気付かなかったところに気付いていけるように！

★ チーム中根の基盤 ⇒ 学年 → 学年みんなで授業づくり → 授業者が代表で実践



① 『安心して関わり合い 支え合う姿』のために・・・

- ・ケアし合う関わり／聴き合う関わりを意識（教師も子供も）
 - 教えて! → いいよ!! の関係づくり
 - 話す人は一人を意識 → 話す人のほうをしっかりと見る
- ・友達の意見に対して発言しようという気持ちを育てていく
友達の意見とつながるような教師のつなぎ方
- ・自分と向かい合い探求する姿が真の学び



グループ・・・個人作業の協同化

分からないときに人に聴ける関係に

★聴くための特別支援

- ・量と質（量→短く／1トピックス）
（質→質の高い言葉にしぼる）
- ・子ども同士のリボイス／リクエスト
- ・戻しのペア／戻しのグループ

★コミュニケーション能力とは・・・ → 体が開いているか



他者肯定感

話すは自分を主人公にすること／聴くは相手を主人公にすること

② 『45分間 夢中で学び続ける姿』のために・・

- ・ペア・グループを授業の要に

= 仲良しのつながりではなくて、ミッションでのつながり！



- ・ 全体＝みんなの意見を聴き合い、新たな発見や課題を共有
ペア・グループ＝個人の学びを豊かにする
- ・ 1～2年生 ペア学習 → 寄り添ってくれる安心感をじっくり味わわせる
友達と学んで楽しいな
3～6年生 ペア学習 → 全員に発言させる／これはきちんと確認したい
グループ学習 → 学びの深まり／広がり

★

	低学年	高学年
ペア・グループ	確認／活動	探求
全体	探求	確認

- ★聴く→体を向けて聴くだけが全てではない
メモを取りながら聴きたいこともある



聴いているか・いないかの見取り→いろいろな方法で！！

③ 『わかった！すっきり！のある授業』のために・・

- ・ 本時に身につけさせたい力を意識



どう足場かけをしていくのか



子供の学びに寄り添う足場かけを！！

- 教師のねらいに沿ったはしごかけ
(抑えたいこと／キーワード／困っていること・・)
本質に関わるものがある場合も。
- 子供の学び（つぶやき）に寄り添うはしごかけ

- ・ 課題と振り返りのつながり

どんなことを身につけさせたいか

→ 子供も教師もわかるような振り返り（言葉で・・適応問題で・・）

- ・ 身につけさせたいものを全員に経験させる

- やってみて→わからないを実感（あれ？どうして？変だよ？ちがうよ？）
- やってみて→わかったを実感（なるほど！そういうことか！）

★難しい課題



権力構造の逆転が授業の中で生まれる

- ★ながら学習→音読しながら書き込みする→書き込むことがなくなったら音読してね
実験しながら予想をたてる

★わからなさに寄り添っているようで わかっている子で進んでいる
↓
(低学年のいいですか？いいです！)
(机間指導 → いい答え探し／わかりやすい説明探し)
どれだけ共有をていねいにやっていくか

【研究協議】

- *グループ協議（3～4人） → 全体協議（**全員発言！**） → 授業者感想
- *積極的な発言を！
(たくさん語るのではなく一番の見取りを！できるだけたくさんの意見を聞きたい！)
- *「誰が何をどうした」・・・子供の名前を出してエピソードを語る
「こんなふうに思った」・・・感じたこと／発見したこと／思ったこと
「こうやって活かしていきたい」・・・自分の授業につなげる
- *全体協議での発言は1人30秒 = 1番のトピックスを！！
→ 学びの事実を実名で（自分の見たこと・協議で知ったこと）&そこから学んだこと
→ 授業の場面ごとに振り返る
- *授業の見方 → *メモを取りながら参観することを意識
*いつ 誰が どうした → 何を感じたか



一人の子に注目して授業参観！

- ①気になる子を見つける。（表情が冴えないな・・・話聞けないな・・・関わっていないな・・・）
- ②記録（写真／教師の発言や児童の反応をメモ）をとりながら授業を見る。
 - ・先生の発言を聴いて
 - ・友達の発言を聴いて
 - ・ペア／グループのときの様子は？
- ③どんな時にその子が変わったか／また変わらなかったのはなぜか？→学んだことを意識